

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学研究科
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 大学院指導教員の研究専念時間を確保する。	→担当科目数の適正化と職務分掌の公正化（時間数）。外部研究資金への申請数、採択数、採択率。	B
2. 研究成果発表を促進する。	→研究成果発表数。	B
3. 教育研究を支援する環境や条件の整備；個人研究室の整備、教育設備・機器の充実化を継続する。	→個人研究室使用に関するニーズアセスメントのデータ。	C
4. 学内倫理委員会による「人を対象とした臨床・調査・実験研究」倫理規程を厳格に適用する。	→学内倫理委員会の審査を受けた研究申請数。	C
5. 各種研究助成金制度（個人研究費、学会出張費、大学の国際発表助成金制度）の継続的發展を確認する。	→各種助成金成果報告書	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目9.0.4	(方針) 大学院指導教員の研究時間と資源が保証され、指導する学生の学位論文の水準が高まるような環境を整備する。 (現状説明) 専任教員72名(教授64名、准教授8名)の研究活動を支える個人研究費は一定額が保証されている。学内の研究発表媒体としては、関西学院大学人文学会が発行する『人文論究』、文学研究科が発行する紀要において、教員および大学院生が研究論文や研究成果を公表できるように環境が整えられている。さらに、国内、国際学会で研究発表を行う教員を多数かかえる文学研究科では、「関西学院大学研究業績データベース」に掲載されている教員別の業績数は増加傾向にある。2009年度は、著書9、論文36、レフェリー付き論文23、学会報告47、講演6、招待講演2と記録されている。このような現状を踏まえ、国際水準の学術活動を盛んにするためには、さらに系統的な支援が必要である。
☆ その他	博士論文研究の公正で透明な審査手続きの見直しと強化。目標4指標4の2009年度データは現時点でまだ収集していないが、大学ベースの厳格な倫理規定は作成されている。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

☆ 小項目9.0.4	科研採択状況でみると専任教員の研究が一部で活発化している。2005年度3/13 (23.1%)、2006年度2/11 (18.2%)、2007年度3/14 (21.4%)、2008年度1/15 (6.7%)、2009年度8/14 (57.1%)という状況である。
☆ その他	大学院生による2009年度の研究発表・論文数を研究科内で調査中である。

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

☆ 小項目9.0.4	上記の活動を促進させる。他にも、学内共同研究(2009年度2件)、個人特別研究(2009年度1件)の活用を奨励する。
☆ その他	新中長期計画に基づく全学規模の奨励金制度・研究奨励制度をフルに活用する。リサーチアシスタント・大学院奨励研究員・後期課程研究奨励金・ベーズ第1種支給奨学金を有効的も活用する。

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項	
小項目9.0.4	大学の多様化に伴い、教員の業務も多様化しているが、バランスを慎重に考慮した人的資源の配分を行う。
★ その他	前期課程2年および後期課程学生の学術振興会特別研究員への申請数を増やす。目標3の研究設備に関しては、指標3に示した文学部本館の研究室が開いている時間の延長や図書館の週末の時間の延長など、大学院生と研究員が夜間も大学内で研究できる環境の整備が急務である。
↓	
【次年度に向けた方策(2)】改善方策	
小項目9.0.4	上記の内容の検討を進める。
★ その他	上記の内容の検討を進める。

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★ その他 (自由記述)	

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

- 【学外委員】
 - 外部資金の獲得や対外的な研究成果の発表に対する意欲的な取組は評価されます。研究設備などの環境整備が進められることが望まれます。
- 【学内委員】
 - 教員の研究時間を確保するとともに、教育研究を支援する環境や条件の整備；個人研究室の整備、教育設備・機器の充実化を図ることは重要です。研究の質を向上させることなくして提供する教育サービスの質は高まりません。また、TAやRAの効果的な利用などの教育研究支援体制の充実が望まれます。
 - 取り組みを評価します。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- ★ ○大学院生の研究環境の整備に関して、文学部本館の閉館は授業終了時となっており、18時30分以降、研究室を全く使用できないことに対する苦情が大学院生から毎年出ている。カードキーなどを導入するなど、全学的に研究環境を早急に改善する必要性があることを追記する。開館時間の延長は、文学研究科で毎学期実施している授業評価と教育研究環境に関する調査への回答に必ず出てくる要望である。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

9.0.0.S1	個人研究費・研究旅費の額
9.0.0.S2	留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況
9.0.0.S5	科研費の申請・採択件数
9.0.0.S6	学外からの研究費の総額と一人当たりの額
9.0.0.S11	専任教員の発表論文数
9.0.0.S13	学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文数
9.0.0.S14	21世紀COEプログラムの採択状況
9.0.0.S15	文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況
9.0.0.S16	特定プロジェクト研究センター制度の活用状況
9.0.0.S18	校地、校舎、講義室・演習室等の面積
9.0.0.S21	教室の種別数と使用率
9.0.0.S22	PC設置台数
9.0.0.S23	研究設備(文科省補助、学院購入)の整備状況
9.0.0.S24	シャトルバスの利用状況

<個別的な指標>
